■研究発表論文

市民団体ネットワークを運営主体とした民有樹林地の公開イベント活動の成果と課題

The Effect and Issues of Opening Privately Owned Forests to Public Visit through an Event Organized by Local Community Groups

尹　紋榮*　　柳井　重人*　　田中　聖美*

Moonyoung YOON　Shigeto YANAI　Kiyomi TANAKA

Abstract: This study aims to clarify the effects and issues of opening privately owned forests to public visits through an event organized by local community groups. “Open Forest in Matsudo” was a 9-day event held on May 2012, in Matsudo City, Chiba Prefecture, Japan. The event was chosen as a case study for this research. Alongside a questionnaire survey conducted among the event participants, an interview survey was also carried out among several local community groups and local government bodies, who were the core organizers of the event. The study revealed that both the participants and organizers benefitted from the event in several ways. For example, participants fostered wider knowledge regarding forest management by local community. On the other hand, event organizers had an opportunity to share their event management skills, as well as building a wider network of community groups. However, several issues were realized upon running the event which included funding issues, and the need to consider the reduction of workload at the event preparation stage in the future.

Keywords: *privately owned forests, public visit, local community groups, visitor*
キーワード：民有樹林地，公開，市民団体，来訪者

１．研究の背景と目的

住宅地の身近な樹林地は，生活環境の保全やレクリエーションの場等の多様な機能を有している[1)]。しかし，樹林地は地権者の日常的な維持管理への労力の負担等により放置され，相続税の負担による宅地化等により，その存続も危ぶまれている[2)]。このような中で，都市緑地法による特別緑地保全地区や市民緑地の指定，自治体独自の条例・要綱による市民の森等の指定等がなされ，樹林地の保全や地域住民への公開に係わる施策が展開されている。民有樹林地が公開された場合，近隣住民は，当該樹林地をレクリエーションや自然とのふれあいの場として活用できる[3)]。土地所有者は，適用される制度により詳細は異なるが，維持管理費の奨励金支援，固定資産税，相続税の減免等優遇措置が提供されるという利点がある。行政には，樹林地減少に歯止めをかけることができ，地域住民による保全活動団体が自立することで，地域住民の合意形成を得やすい等様々な効果が挙げられる[4)]。

このように民有樹林地の公開による利点は多様であるが，大きな課題は，樹林地の管理運営主体としての市民団体の育成や，個々の団体や活動のネットワーク化である[5)]。加えて，長期的な活動の継続を考えた場合には，緑に対する関心が高い層や，実際の活動参加者への働きかけだけではなく，如何にして一般市民の緑への関心や活動への理解を高め，それによって緑の担い手の裾野を広げていくかを検討することも重要な課題となる[6)]。

このような課題に対応し，2012 年 5 月に千葉県松戸市で実施されたのが，「第 1 回オープンフォレスト in 松戸」である。この試みは，市民団体が管理する市内のすべての民有樹林地が一定期間内に市民に一斉公開されたこと，市民団体相互のネットワークを基盤にした組織と行政等との協働により運営が行われたこと，個々の樹林地での公開イベントやツアー形式のイベント等を通じ，幅広い層の市民を対象にしたこと等の面が特筆に値する。

そこで，本研究では，「第 1 回オープンフォレスト in 松戸」（以下，OF）を事例とし，その効果と課題を，一般市民に対する樹林地保全活動の理解向上と担い手確保，市民団体間のネットワークの強化と運営体制の構築，行政等の他主体との協働の実現，の 3 つの側面から検証することを目的とした。

２．研究の方法

（１）対象地の概要

千葉県松戸市は東京から約 20㎞ 圏内に位置し，人口 481,274 人(2012 年 6 月)の首都圏近郊のベットタウンである。隣接市は柏市，流山市，市川市，鎌ヶ谷市で，西側は江戸川に接する。市内には約 255ha（市域面積の約 4%）の樹林地が存在し，民有樹林地は約 155ha（樹林地の 45%）を占めているが，近年は減少傾向にある。そのため，行政は，都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」，「松戸市緑の条例」（2000 年制定）に基づく「保全樹林地区」，「特別保全樹林地区」等を指定し保全に努めている[8)]。

また，樹林地保全のための市民団体の活動が活発であり，行政等との協働により様々な成果を上げてきた。この点は，既往の研究[5)]や論説[6)]が詳しい。「里やまボランティア入門講座」により，毎年，新たな市民団体が設立されること，その団体が実際の活動の立ち上げを行うまでの支援の仕組みが整っていること，これらは既存の市民団体が主導し行政との協働により実現していること，講座をもとに設立された団体は「松戸里やま応援団」[7)]というネットワークを形成していること等が特長である。一方，市民団体のメンバーの高齢化や一般市民への活動の広報・普及が課題である。

（２）調査の方法

調査の概要を表－１に示した。第一に，第 1 回オープンフォレスト in 松戸実行委員会（以下，実行委員会）から提供された委員会資料等に基づく文献調査，実行委員会事務局担当者へのインタビューを実施した。これを通じて，OF の趣旨，実行委員会の設立経緯や運営体制等を把握した。第二に，OF のイベントとして実施された「森巡りツアー」および「森の公開」の参加者を対象に，

*千葉大学大学院園芸学研究科

表－１　調査の概要

調査方法	調査対象	調査内容	調査期間
文献資料調査・インタビュー	実行委員会事務局担当者	・「オープンフォレストin松戸」の実施経緯 ・「オープンフォレストin松戸」の当初の目的 ・「オープンフォレスト実行委員会」運営体制	2012年4月～7月
アンケート調査	「森巡りツアー」「森の公開」に訪れた来訪者	・「オープンフォレスト」への参加きっかけ ・「オープンフォレスト」への参加への利点 ・「オープンフォレスト」への要望点 ・再訪問意識 ・回答者の属性	2012年5月12日～20日
インタビュー調査	実行委員会事務局担当者	・運営体制の良かった点，問題となった点 ・運営資金確保 ・各プログラムの実施によって得られた効果と課題 ・他団体に対する評価や要望 ・今後，改善の方向性や展望	2012年8月
インタビュー調査	市役所担当者	・行政からの支援 ・「実行委員会」の運営体制においての成果と課題 ・各プログラムの実施によって得られた効果と課題 ・他団体に対する評価や要望 ・今後，改善の方向性や展望	2012年9月初

アンケートを実施した。設問項目は，回答者の属性，OF のイベントの認知経路，参加したきっかけ，イベントに対する評価，運営に対する要望等の 12 項目である。アンケートは，イベント終了時に担当者が直接参加者に配布し，その場で記入を求め，記入後に担当者が直接回収する方式をとった。第三に，実行委員会事務局担当者と市役所担当者を対象にインタビューを実施した。内容は，OF の運営体制の長所と短所，イベントの成果と課題，他主体に対する要望等である。これらのインタビューは OF 実施後に行われた。実行委員会事務局担当者に関しては，イベント実施後の反省会となった最後の実行委員会以降にインタビューを実施しており，メンバー間の意見交換の内容を踏まえた発言が期待されるなど，対象者としての代表性があると言える。

３．OF の目的・事業概要・運営組織

（１）OF の目的

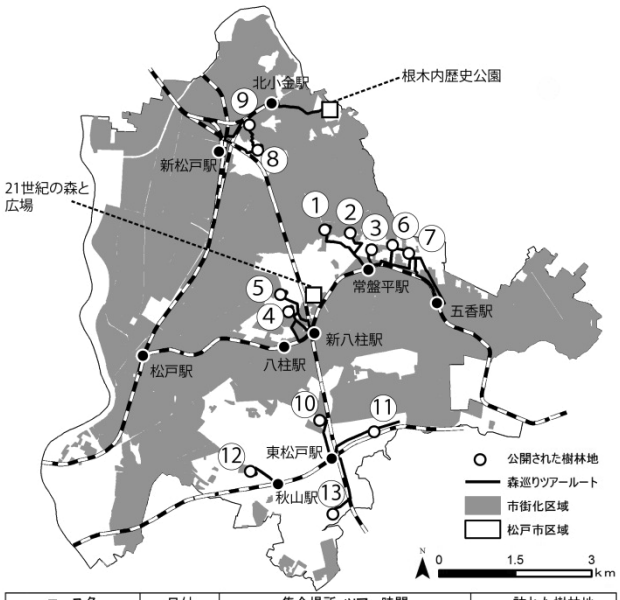
趣意書[9]の記述から OF は，樹林地や保全活動への市民の理解の向上を主たる目的としたことがわかる。また，実行委員会の議事録には，「気軽に里やま保全活動に参加できるようなきっかけづくり」等の語句が散見され，活動の新たな担い手の確保も意図したことがわかる。一方，実行委員会の組織には，市内のすべての市民団体のメンバーが参集していること，各団体間でのイベント運営時の役割分担等が行われていることが把握でき，実行にあたっての市民団体間のネットワーク強化とそれによる運営体制の構築が意図されたことがわかる。加えて，趣意書[9]や議事録には，行政，土地所有者，関連する市民団体等への参加の呼び掛け，関係構築の必要性や協働に向けての具体的作業の内容等が数多く記述されており，様々な主体との協働が意図されたことがわかる。

（２）OF の事業概要

OF は，2011 年 5 月の開催を予定していたが，東日本大震災により 1 年延期された。開催期間は，2012 年 5 月 12 日から 20 日まで 9 日間であり，「オープニング式典」（以下，「式典」），「森の文化祭」（以下，「文化祭」），「森巡りツアー」（以下，「ツアー」），「森の公開」（以下，「公開」）の４種類のイベントが行われた。

「式典」は，期間初日に市内の総合公園である「21 世紀の森と広場」のパークセンターで実施された。OF の開催を記念し，その意義や関連主体の連携を再確認するために，実行委員会，土地所有者，樹林地保全団体，後援団体，行政関係者が参集し，主催者の挨拶，公開する森の土地所有者への感謝状の贈呈，各団体による樹林地保全活動の紹介等が行われた。

「文化祭」は，期間中を通じて，パークセンターで実施された。来訪者の市民の樹林地保全活動への理解向上を目的とし，活動の楽しみや広がりを伝えることに重点が置かれた。活動を紹介するパネルや映像の展示，樹林地の維持管理作業で発生する木材・竹材を使用したクラフト等の展示が行われた。



	コース名	日付	集合場所・ツアー時間	訪れた樹林地
A	八ヶ崎・金ヶ作	5月12日(土)	21世紀の森と広場内 パークセンター前(13時～15時30分)	① 八ヶ崎の森 ② ホダシの森 ③ 囲いやまの森
B	千駄堀	5月12日(土)	21世紀の森と広場内 パークセンター前(13時～15時30分)	④ しんやまの森 ⑤ 芋の作の森
C	常盤平・五香	5月13日(日)	新京成線常盤平駅 (10時～12時30分)	⑥ 立切の森 ⑦ 三吉の森
D	幸谷	5月15日(火)	新京成線常盤平駅 (10時～12時30分)	⑧ 関さんの森 ⑨ 溜ノ上の森
E	紙敷・河原塚	5月16日(水)	JR常磐線東松戸駅 (09時30分～12時30分)	⑩ 河原塚古墳の森 ⑪ 紙敷石みやの森
F	高塚・秋山	5月20日(日)	JR常磐線東松戸駅 (09時30分～12時30分)	⑫ 秋山の森 ⑬ 小浜屋敷の森

※表中の番号①～⑬は、図の番号と対応する

図－１　「森巡りツアー」のコースと概要

「ツアー」のコースと概要は図－1 に示した。複数の樹林地をガイド付きのツアー形式で巡るイベントであり，6 コースで実施された。より多くの市民に樹林地の存在や保全活動を理解してもらうため，樹林地の場所を知らない多くの市民がアクセスしやすい駅を集合場所とし，参加者を市民団体のメンバーが樹林地へ引率していき，個々の樹林地では，樹林地の自然や市民団体の保全活動を解説する形式をとった。

「公開」は，参加者があらかじめ設定された公開日に個々の樹林地を訪れ，市民団体が独自に企画したイベントを楽しむものである。樹林地保全活動の楽しみを伝え，気軽に活動に参加できるようなきっかけづくりを目的としている。このため，個々の市民団体により，樹林地保全活動の紹介の他にも，自然観察，ハンモック遊び，紙芝居，クラフト等のプログラムが提供された。

なお，「ツアー」で公開された樹林地は，13 箇所の民有樹林地，「公開」で公開された樹林地は，1 箇所の都市公園（近隣公園である「根木内歴史公園」）を加えて計 14 箇所であった。

（３）運営組織

実行委員会は，「松戸里やま応援団」が，市内の他の市民団体に呼び掛けを行ったことを契機に 2010 年 7 月に組織された。以後，OF が終了し，その反省が行われた実行委員会を含め，計 20 回の実行委員会が開催された。

メンバーは，学識経験者，樹林地所有者で構成され定例会や相続税に関する陳情，市民団体との交流を行う「松戸ふるさとの森の会」，民有地の緑地保全や緑化推進を事業とする「(財) 松戸みどりと花の基金」，市民活動の中間支援組織である「松戸まちづくり交流室テント小屋」の代表者に加え，樹林地保全の市民団体の代表者が参集した。市民団体は，表－2 に示すように，「里やまボランティア入門講座」が開設される以前から活動を継続してきた「関さ

表－２　実行委員会に参加した市民団体の概要

団体名	結成年	会員数	主な活動内容
関さんの森を育む会	1995	約200家族	関さんの森・幸谷の保全活動(1回／月)
河南環境美化の会	1996	212人	河原塚古墳の森の保全活動(2回／月)
緑のネットワークまつど	2000	39人	松戸里やまボランティア入門講座共催 年4回観察学習会 定例会議(1回／月)
金ヶ作の森を育む会	2001	20人	三吉の森の保全活動(1回／月)
松戸ふるさとの森の会	2002	80人	樹林地保全にかかわる緑化の啓発や調査研究 樹木の育成管理及び植樹及び樹林地保全
溜ノ上レディース	2005	13人	幸谷の保全活動(2回／月)
根木内歴史公園サポーター・根っ子の会	2006	23人	公園の保全活動(毎週金曜日) 根木内歴史公園の保全整備及び湿地帯の観察会
一起の会（1期生）	2004	17人	八ヶ崎の森の保全活動(2回／月)
囲いやま森の会（2期生）	2005	16人	囲いやまの森の保全活動(2回／月)
三樹の会（3期生）	2006	31人	三吉の森・立切の森の保全活動(3回／月)
四季の会（4期生）	2007	16人	ホダシの森の保全活動(2回／月)
里やま V・千駄堀（5期生）	2008	22人	しんやまの森の保全活動(2回／月)
小浜の森の会（6期生）	2009	21人	小浜屋敷の森の保全活動(2回／月)
七喜の会（7期生）	2010	16人	紙敷石みやの森の保全活動(3回／月)
八輝の会（8期生）	2011	13人	芋の作の森の保全活動(2回／月)
松戸里やま応援団	2008	8団体(152人)	秋山の森(2回／月)・ 八幡腰の森の保全活動(3～4回／年)

表－３　実行委員会の運営体制

部会	主要業務	事業の目的や意図との対応		
		樹林地保全活動の理解向上と担い手確保	市民団体間のネットワーク強化と運営体制の構築	行政等の他主体との連携や協働の実現
行動計画部会	・イベントの企画・調整・準備・実行	・「オープニング式典」の企画 ・「森の文化祭」の企画 ・「森巡りツアー」の企画 ・「森の公開」の企画	・各イベントの日程調整（各市民団体） ・各イベントの実施準備・要員確保（各市民団体） ・「森の文化祭」の展示パネル準備の依頼（各市民団体） ・「森巡りツアー」の下見・コース設定（特定の市民団体）	・「オープニング式典」,「森の文化祭」の会場確保（市みどりと花の課） ・実行委員会会場の提供（市みどりと花の課）
広報部会	・広報媒体の作成 ・広報依頼	・チラシとポスターの作成 ・市の広報への記事掲載依頼 ・新聞への記事掲載依頼 ・ミニコミ誌への記事掲載依頼 ・ガイドブックの作成	・チラシ・ポスターのデザインの検討依頼（市民団体メンバー） ・ガイドブックの記事・写真の提出依頼（各市民団体）	・記者クラブでの会見設定依頼（市みどりと花の課） ・チラシ・ポスター配布依頼（市教育委員会指導課・小中学校） ・チラシ回覧・ポスター掲示依頼（市地域課） ・その他
資金部会	・資金調達 ・予算・決算の作成 ・出納確認	－	・協賛金依頼先の検討依頼（市民団体）	・資金確保ための情報収集（松戸市みどりと花の課・（財）松戸市みどりと花の基金） ・直接訪問による協賛金の依頼（地元事業者）

んの森を育む会」,「金ヶ作の森を育む会」,「河南環境美化の会」,「溜ノ上レディース」,「里やまボランティア入門講座」の共催や観察学習会を行う「緑のネットワークまつど」,公園の保全活動団体である「根木内歴史公園サポーター・根っ子の会」に,「松戸里やま応援団」の８団体である。実行委員会は委員長１名，副委員長２名，委員 13 名，会計２名，事務局長１名，事務局１名，監事２名の計 22 人からなる。

表－3 には実行委員会の運営体制を示した。行動計画，広報，資金の３部会と事務局で構成され，構成員の全員が市民団体メンバーであるため，OF の具体の作業も市民主体で行われたと言える。

行動計画部会は，「式典」や「文化祭」の企画，要員確保，「ツアー」の企画，訪問地となる樹林地の市民団体との調整，ガイドの確保等を行った。また「公開」では市民団体の独自イベントの実施日の調整を行った。OF の目的を達成するためのイベントの企画について主導的な役割を担うとともに，市民団体間の調整や連携を図る役割が期待されていたと言える。

広報部会は，OF の開催を告知するチラシやポスター，ガイドブックの作成等を行った。また，市の広報，新聞，ミニコミ誌等への広報依頼を行った。ガイドブックは，公開する樹林地の位置を記載した地図，樹林地の特徴，管理する市民団体の連絡先，活動日と内容等が掲載されている。これは「ツアー」,「公開」で樹林地を訪れた参加者に配布され，他のメディアによる OF の開催そのものの周知に加えて，市民の樹林地保全活動の理解向上や活動の担い手確保に役立てることを意図していた。

資金部会は，事業予算・決算の作成と出納確認，資金調達を行った。資金調達では市内の事業者等を直接訪問し，OF の趣旨を説明するとともに，協賛金の依頼を行っており，地元事業者という新たな主体の参加促進の役割を担ったと言える。

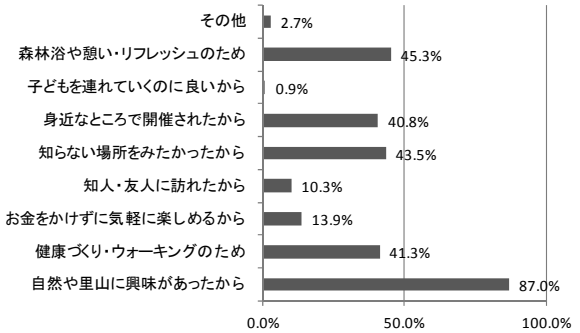
事務局は，実行委員会の運営の他，共催団体の松戸市との連絡調整の窓口として，行政との連携や協働の促進の役割も担った。

なお，運営資金は実行委員会が市民や地元事業者等から募る協賛金により賄われた。その総額は約 60 万円であり，44%が市民団体，27%が地元事業者，25%が個人によるものであった。その使途はポスター・チラシ印刷費が 39%，パネル・横断幕が 18%，通信費が 3%，事務所費・文房具が 8%，傷害保険費が 3%，次回繰越額が 29%等であり，広報に該当する額が大きいと言える。

また，OF の共催団体である松戸市では，みどりと花の課の担当者がオブザーバーとして実行委員会に同席し意見を述べるとともに，公的機関への後援依頼，土地所有者との連絡調整，広報・HP への掲載，会議室の提供，資料のコピーなどの役割を担っていた。

表－４　各プログラムに訪れた参加者の数とアンケート回答数

イベント名		5月 12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)	18(金)	19(土)	20(日)	合計	回収数	有効回答
式典・文化祭	オープニング式典	78	－	－	－	－	－	－	－	－	78	－	－
	森の文化祭	52	30	－	10	37	33	38	91	88	379	－	－
										合計	457	－	－
森巡りツアーコース	八ヶ崎・金ヶ作	45	－	－	－	－	－	－	－	－	45	37	35
	千駄堀	84	－	－	－	－	－	－	－	－	84	64	61
	常盤平・五香	－	180	－		－	－	－	－	－	180	－	－
	幸谷	－	－	－	23	－	－	－	－	－	23		
	紙敷・河原塚	－	－	－	－	88	－	－	－	－	88	71	69
	高塚・秋山	－	－	－	－	－	－	－	－	83	83	63	58
										合計	503	235	223
森の公開	関さんの森	－	89	－	－	－	－	－	－	74	163	106	99
	溜ノ上の森	－	30	－	－	－	－	－	－	－	30	7	7
	根木内歴史公園	－	20	－	－	－	－	－	－	80	100	－	－
	八ヶ崎の森	－	27	－	－	－	－	－	14	－	41	27	26
	囲山の森	－	143	－	1	－	－	－	46	－	190	59	54
	三吉の森	－	7	17	－	8	12	2	20	11	77	32	29
	立切の森	－	－	6	－	8	12	－	11	6	43		
	ホダシの森	－	39	－	－	－	－	－	26	－	65	17	15
	しんやまの森	－	17	－	－	－	－	－	－	20	37	14	12
	芋の作の森	－	15	－	－	－	－	－	－	14	29	17	14
	小浜屋敷の森	－	9	－	－	－	4	－	－	8	21	3	3
	紙敷石みやの森	－	27	－	－	19	－	－	－	－	46	26	24
	河原塚古墳の森	－	63	－	－	6	－	－	23	－	92	33	31
	秋山の森	－	35	－	－	－	17	－	－	19	71	38	37
										合計	1005	379	351



図－２　「森巡りツアー」への参加のきっかけ

４．「ツアー」および「公開」参加者の意識

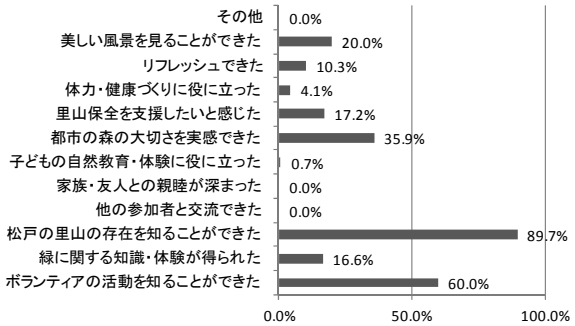
（１）アンケートの回収結果

表－4 にイベント期間中，各プログラムに参加した人数，アンケート実施場所および回答数を示す。「式典」78 名，「文化祭」379 名，「ツアー」503 名，「公開」1005 名，延べ 1965 名の参加がみられた。なお，幸谷コースは雨天中止，常盤平・五香コースは樹林地保全市民団体の事情によりアンケートは実施されなかった。アンケートの回収は，「ツアー」が 235 票，「公開」が 379 票であり，有効回答数は「ツアー」が 223 票，「公開」が 351 票であった。アンケートは，不明および無回答を除いて集計した。

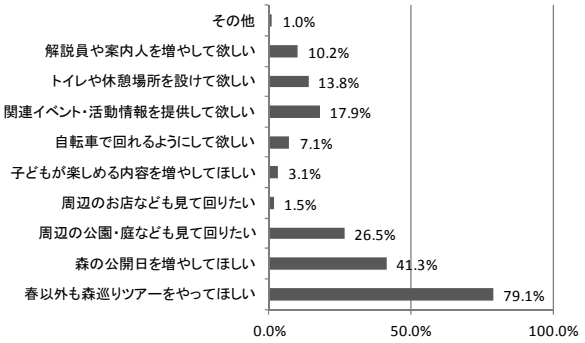
（２）「ツアー」参加者の意識

１）参加者層

「ツアー」の参加者の年齢と同行者を尋ねた結果，60 代が 51%で一番多く，次に 70 代が 34%で，60～70 代が約 85%を超える一



図－３　「森巡りツアー」への参加の利点



図－４　「森巡りツアー」への要望

方，30～40 代を合わせても 5%に満たなかった。同行者は，「一人」が 55%で最も多く，「知人・友人」が 22%，「夫婦」が 21%であった。また，現住所は，松戸市内が 80%以上を占める一方，柏市，鎌ヶ谷市，流山市等の隣接市からの参加もみられた。さらに，「ツアー」の認知手段を複数回答で尋ねた結果，市内の参加者は，「松戸市の広報」が最も多く 76.4%であり，市外の参加者は「新聞」が最も多く 57.8%，「知人・友人」が 31.1%となった。

以上より，「ツアー」の参加者は，「松戸市の広報」を見た市内在住者が主であるが，「新聞」の記事，「友人・知人」の口コミにより隣接市の在住者にまで及んだと言える。

２）参加のきっかけ

「ツアー」参加のきっかけを複数回答（上位３項目選択）で尋ねた結果を図－2 に示す。「自然や里山に興味があったから」が 87.0%で最も多く，「森林浴や憩い・リフレッシュのため」が 45.3%，「知らない場所をみたかったから」43.5%となった。一方，過去に自然観察会や自然体験ツアー等に参加した回数を尋ねた結果，「今回が初めて」が 58.6%，「2 回～4 回」が 29.5%となった。

以上より，「ツアー」は，自然や里山に興味はあるものの，関連するイベントへの参加経験が少ない市民の参加を促したと言える。

３）イベントに対する評価

「ツアー」参加の良かった点を複数回答（上位３項目選択）で尋ねた結果を図－3 に示す。上位３項目は，「里山の存在を知ることができた」が 89.7%，「ボランティアの活動を知ることができた」が 60.0%，「都市の森の大切さを実感できた」が 35.9%となった。また，「里山保全を支援したいと感じた」も 17.2%となった。次に，OF と同様のイベントに今後参加したいかを尋ねた結果，「ぜひ参加したい」が 43.3%，「機会があれば参加したい」が 47.0%となった。さらに，OF への要望を複数回答（上位３項目選択）で尋ねた結果を図－4 に示す。上位３項目は「春以外もツアーをやってほしい」が 79.1%，「森の公開日を増やしてほしい」が 41.3%，「周辺の公園・庭なども見て回りたい」が 26.5%となった。

以上より，「ツアー」は，樹林地の存在や意義のみならず，樹林地保全活動への理解の向上に寄与したと言える。また，同様のイベントへの参加希望，「ツアー」の開催頻度や樹林地の公開日の増大に対する要望が強いことから，「ツアー」には，参加者の樹林地保全に対する関心を高める効果があったと言える。

表－５「森の公開」参加者の属性（年齢・同行者）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
一人	0	2	9	8	18	53	33	1	124
	0.0%	0.6%	2.6%	2.3%	5.2%	15.3%	9.5%	0.3%	35.7%
夫婦	0	1	4	2	15	41	8	2	73
	0.0%	0.3%	1.2%	0.6%	4.3%	11.8%	2.3%	0.6%	21.0%
親子	2	1	16	24	3	2	0	1	49
	0.6%	0.3%	4.6%	6.9%	0.9%	0.6%	.0%	0.3%	14.1%
家族	2	2	7	10	1	6	3	0	31
	0.6%	0.6%	2.0%	2.9%	0.3%	1.7%	0.9%	0.0%	8.9%
知人・友人	4	1	4	5	4	21	16	5	60
	1.2%	0.3%	1.2%	1.4%	1.2%	6.1%	4.6%	1.4%	17.3%
その他	0	0	0	0	0	6	4	0	10
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.2%	0.0%	2.9%
合計	8	7	40	49	41	129	64	9	347
	2.3%	2.0%	11.5%	14.1%	11.8%	37.2%	18.4%	2.6%	100.0%

表－６　「森の公開」への参加のきっかけ

	一人で訪れた60～70代		知人と訪れた60～70代		夫婦で訪れた50～60代		親子連れの30～40代		その他		合計	
自然や里山に興味があったから	70	82.4%	28	75.7%	47	85.5%	23	57.5%	86	67.2%	254	73.6%
健康づくり・ウォーキングのため	34	40.0%	11	29.7%	18	32.7%	6	15.0%	37	28.9%	106	30.7%
お金をかけずに気軽に楽しめるから	15	17.6%	7	18.9%	8	14.5%	4	10.0%	14	10.9%	48	13.9%
知人・友人に訪れたから	10	11.8%	15	40.5%	3	5.5%	3	7.5%	25	19.5%	56	16.2%
知らない場所をみたかったから	38	44.7%	15	40.5%	25	45.5%	8	20.0%	41	32.0%	127	36.8%
身近なところで開催されたから	31	36.5%	14	37.8%	23	41.8%	21	52.5%	53	41.4%	142	41.1%
子どもを連れていくのに良いから	3	3.5%	2	5.4%	0	0.0%	30	75.0%	17	13.3%	52	15.0%
森林浴や憩い・リフレッシュのため	21	24.7%	18	48.6%	25	45.5%	11	27.5%	48	37.5%	123	35.6%
その他	5	5.9%	0	0.0%	1	1.8%	1	2.5%	7	5.5%	14	4.0%
全体	85	100.0%	37	100.0%	55	100.0%	40	100.0%	128	100.0%	345	100.0%

※回答率の高い上位３項目に網掛けをした

（３）「公開」参加者の意識

１）参加者層

「公開」参加者の年齢および同行者について尋ねた結果を表－5 に示す。年齢は「60 代」が 37.2%，「70 代」が 18.4%，「30 代」が 11.5%，「40 代」が 14.1%，「50 代」が 11.8%となった。また，同行者は「一人」が 35.7%，「親子」が 14.1%，「家族」が 8.9%であった。さらに参加者の年代と同行者の傾向をみると，「一人で訪れた 60～70 代」が 24.8%，「夫婦で訪れた 50～60 代」が 16.1%，「親子連れの 30～40 代」が 11.5%，「知人・友人と訪れた 60～70 代」が 10.7%となり，これらの４タイプが特徴的な参加者層であった。

また，現住所を尋ねた結果，松戸市内が 80%以上を占める一方，柏市，鎌ヶ谷市，流山市等の隣接市からの参加があり，「ツアー」と同様の傾向となった。「公開」の認知手段を複数回答で尋ねた結果，市内の参加者では「松戸市の広報」が最も多く 64.6%，市外のそれは「新聞」が 39.5%，「知人・友人」が 36.1%となった。

以上より，「公開」の参加者は，「松戸市の広報」をみた市内在住者が主であるが，「新聞」の記事，「友人・知人」の口コミにより隣接市の在住者にまで及んだと言える。なお，以下では，上述の特徴的な参加者層４タイプを中心に分析した。

２）参加のきっかけ

「公開」参加のきっかけを複数回答（上位３項目選択）で尋ねた結果を表－6 に示す。全体では，「自然や里山に興味があったから」が 70%以上と最も多く，「身近なところで開催されたから」が 41.1%，「知らない場所をみたかったから」が 36.5%であった。タイプ別にみると，「一人で訪れた 60～70 代」，「知人・友人と訪れた 60～70 代」，「夫婦で訪れた 50～60 代」では，「自然と里山に興味があったから」が 70%以上であった。一方，「親子連れの 30～40 代」では「子どもを連れていくのに良いから」が 70%以上となった。

表－７　「森の公開」への参加の利点

	一人で訪れた60～70代		知人と訪れた60～70代		夫婦で訪れた50～60代		親子連れの30～40代		その他		合計	
ボランティアの活動を知ることができた	40	71.4%	16	72.7%	29	72.5%	15	48.4%	47	52.2%	147	61.5%
緑に関する知識・体験が得られた	13	23.2%	2	9.1%	14	35.0%	8	25.8%	17	18.9%	54	22.5%
松戸の里山の存在を知ることができた	30	53.6%	14	63.6%	34	85.0%	14	45.2%	60	66.7%	152	63.5%
他の参加者と交流できた	4	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.3%	7	2.9%
家族・友人との親睦が深まった	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%	3	1.2%
子どもの自然教育・体験に役に立った	2	3.6%	2	9.1%	0	0.0%	17	54.8%	10	11.1%	31	12.9%
都市の森の大切さを実感できた	19	33.9%	8	36.4%	12	30.0%	3	9.7%	27	30.0%	69	28.8%
里山保全を支援したいと感じた	15	26.8%	4	18.2%	8	20.0%	1	3.2%	14	15.6%	42	17.5%
体力・健康づくりに役に立った	4	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.3%	7	2.9%
リフレッシュできた	3	5.4%	4	18.2%	4	10.0%	10	32.3%	22	24.4%	43	17.9%
美しい風景を見ることができた	9	16.1%	6	27.3%	4	10.0%	6	19.4%	17	18.9%	42	17.5%
その他	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	2	0.8%
全体	56	100.0%	22	100.0%	40	100.0%	31	100.0%	90	100.0%	239	100.0%

※回答率の高い上位３項目に網掛けをした

一方，過去に自然観察会や自然体験ツアー等に参加した回数を尋ねた結果，全体では，「今回が初めて」が 68.3%，「2～4 回」が 20.9%となり，自然観察会等への参加経験が少ない参加者が 90%程度に達した。タイプ別にみると，「今回が初めて」が「親子連れの 30～40 代」で約 90%に達したことが特徴的であった。

以上より，「公開」は，60～70 代の高齢者のみならず 50～60 代といった次の世代に対しても同様に，自然や里山に興味はあるものの観察会やツアー等への参加経験が少ない市民の参加を促した効果があったと言える。また，「親子連れの 30～40 代」が，子どもの遊びや学びの機会として「公開」をとらえ参加したと言える。

３）イベントに対する評価

「公開」参加の良かった点を複数回答（上位３項目選択）で尋ねた結果を表－7 に示す。全体では「里山の存在を知ることができた」，「ボランティアの活動を知ることができた」が 60%を超え，「里山保全を支援したい」は 17.5%となった。タイプ別では「夫婦で訪れた 50～60 代」は「松戸の里山の存在を知ることができた」が 85.0%，「親子連れの 30～40 代」は「子どもの自然教育・体験に役に立った」が 54.8%に達した。なお，「里山保全を支援したいと感じた」は「一人で訪れた 60～70 代」と「夫婦で訪れた 50～60 代」で 20%を超えたが，「親子連れの 30～40 代」は 3.2%であった。

また，OF と同様のイベントに今後参加したいかを尋ねた結果，全体では「是非参加したい」が 35.3%，「機会があれば参加したい」が 50.0%となった。タイプ別では「親子連れの 30～40 代」で「是非参加したい」が 50%近くになった。

さらに，OF への要望を複数回答（上位３項目選択）で尋ねた結果を表－8 に示す。全体では「春以外もツアーをやってほしい」が 59.4%，「公開日を増やしてほしい」が 47.7%であった。タイプ別では，「一人で訪れた 60～70 代」は「春以外もツアーをやってほしい」が 70.3%，「夫婦で訪れた 50～60 代」も「春以外もツアーをやってほしい」が 56.3%，「親子連れの 30～40 代」では「子どもが楽しめる内容を増やして欲しい」が 58.3%となった。

以上より，「公開」は，樹林地の存在や樹林地保全活動への参加者理解の向上に寄与したと言える。また，同様のイベントへの参加希望，ツアーの開催頻度や樹林地の公開日の増大に対する要望が強いことから，参加者の満足度は高かったと言える。さらに，「夫婦で訪れた 50～60 代」に対しては，樹林地の存在そのものに対する認識の向上，「一人で訪れた 60～70 代」も合わせ，活動支援に対する意識付けの効果があったと言える。一方，「公開」は，「親子連れの 30～40 代」にとって子どもの遊びや学びの機会として効果的であるが，樹林地の保全の支援に対する意識付けにはつながらなかったと言える。

表－８　「森の公開」に対する要望

	一人で訪れた60～70代		知人と訪れた60～70代		夫婦で訪れた50～60代		親子連れの30～40代		その他		合計	
春以外も森巡りツアーをやってほしい	52	70.3%	17	58.6%	27	56.3%	16	44.4%	70	58.8%	182	59.4%
森の公開日を増やしてほしい	41	55.4%	11	37.9%	25	52.1%	16	44.4%	53	44.5%	146	47.7%
周辺の公園・庭なども見て回りたい	25	33.8%	11	37.9%	18	37.5%	8	22.2%	27	22.7%	89	29.0%
周辺のお店なども見て回りたい	0	0.0%	1	3.4%	2	4.2%	1	2.8%	5	4.2%	9	2.9%
子どもが楽しめる内容を増やしてほしい	6	8.1%	2	6.9%	0	0.0%	21	58.3%	25	21.0%	54	17.6%
自転車で回れるようにして欲しい	4	5.4%	3	10.3%	1	2.1%	3	8.3%	7	5.9%	18	5.8%
イベント・活動情報を提供して欲しい	10	13.5%	8	27.6%	9	18.8%	5	13.9%	20	16.8%	52	16.9%
トイレや休憩場所を設けて欲しい	14	18.9%	5	17.2%	8	16.7%	7	19.4%	19	16.0%	53	17.3%
解説員や案内人を増やして欲しい	1	1.4%	1	3.4%	3	6.3%	0	0.0%	4	3.4%	9	2.9%
その他	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.6%	3	2.5%	7	2.2%
全体	74	100.0%	29	100.0%	48	100.0%	36	100.0%	119	100.0%	306	100.0%

※回答率の高い上位３項目に網掛けをした

５．OF 主催者の意識

「実行委員会事務局担当者」及び「市役所担当者」から把握した OF 運営上の成果と課題について，表－9 に示す。

（１）実行委員会事務局担当者の認識

第一に，実行委員会の運営体制について得られた成果として，「松戸市内の樹林地保全団体がすべて参加してくれた」や「お互いの団体のノウハウが共有できた」等が挙げられた。OF にすべての市民団体が参加しイベントの準備を協働で実施したことでお互いの団体のノウハウが共有されたと考えられる。例えば，普段から自然観察ツアーを実施している「緑のネットワークまつど」が，「ツアー」のコース設定を依頼されてそれを行ったが，コースの下見等を行う際に，他の市民団体のメンバーも参加し，集合場所やコース設定の考え方，ツアーガイドの方法等を学んで，イベント当日に実際にガイドを行った。一方，課題として，実行委員会の人数が多く，全員が会議に参加することが難しいといった点が挙げられた。また，運営資金の確保やイベント準備での実行委員会メンバーへの負担が挙げられた。

第二に，各プログラムの運営では，「式典」が，樹林地所有者や市長に OF や樹林地保全活動の意義を伝える機会になったことが挙げられた。「ツアー」では，想定を大きく超える参加者があったため，引率するガイド，スタッフやガイドブックが不足したことが課題として挙げられた。「公開」の効果として，参加者に樹林地の存在意義や樹林地保全団体の活動内容を知らせる機会になったこと，樹林地保全活動への参加意欲を示した参加者もいたことが挙げられた。一方，小学校の運動会等の地域行事と公開日の日程調整，樹林地の特性や状況にあったプログラム内容の検討が，課題として挙げられた。

第三に，他団体との連携では，行政による実行委員会の会議の場や「式典」の場の確保等の支援が効果として挙げられた。一方，樹林地所有者で構成される「ふるさと森の会」の実行委員会の会議への参加が課題として挙げられた。

（２）市役所担当者の認識

第一に，実行委員会の運営体制では，市民団体の活動する樹林地の状況把握と調整ができたことが成果として挙げられていた。一方，実行委員会の一部のメンバーに準備の負担が集中したことから役割分担による負担軽減が課題となった。

第二に，イベント運営では，市民が樹林地にふれ合えたことを成果として挙げていた。一方，「式典」や「文化祭」での準備や広報の不足，一部「ツアー」で参加者の多さにスタッフが対応できずに近隣住民から苦情が来たことが挙げられた。

第三に，他団体との連携では，実行委員会事務局担当者と同様に「ふるさと森の会」の実行委員会の会議への参加が挙げられた。また，「（財）松戸みどりと花の基金」から印刷費・交通費等の金

表－９　実行委員会事務局担当者および市役所担当者の意識

		実行委員会事務局担当者	市役所担当者
①OF実行委員会の運営体制	成果	■松戸市内の樹林地保全団体がすべて参加してくれた。 ■各団体が集まることによって意思疎通が取りやすい。 ■お互いの団体のノウハウが共有できた。 ■運営費用の確保には，各会から出してもらえた。 ■土地所有者と直接連絡を取れる関係づくりができていたので公開への交渉もうまくいった。	■市民団体が活動している樹林地の状況の迅速な把握，及び調整ができた。
	課題	■それぞれの団体から実行委員会メンバーを出してもらったので，人数が増え，会議をやっても全員が参加できないといった難しさがあった。 ■「ふるさと森の会」から資金は貰ったが，実行委員会会議に参加してくれなかった。 ■運営資金の確保や各プログラムの準備することでスタッフへの負担があった。	■一部の人に負担が集中した部分があって，当初より細分化して負担軽減を図る，担当を定める必要があった。 ■実行委員会メンバーに樹林地所有者が入っていたが，会議へは不参加であった。 ■一部の樹林地所有者が入会している「ふるさと森の会」に限定せず，松戸市に住んでいる樹林地所有者の協力を得る必要がある。
②各プログラムの運営	成果	■「オープニング式典」は，樹林地所有者や市長に，オープンフォレストや樹林地保全活動の趣旨を伝える機会になった。 ■「森の文化際」では，市民団体の紹介や活動状況の写真展，工作等の展示を通じて市民団体のPRになった。 ■「森巡りツアー」は，新聞報道により松戸市だけではなく，市外においてもPRになった。また，ツアーを実施することによりガイドの仕方が学べた。 ■「森の公開」では，来訪者に樹林地の存在意義・市民団体や活動内容をお知らせる機会になった。 ■三吉の森とし んやまの森での保全活動への参加意欲を表明した来訪者がいた。	■樹林地に触れ合えることや身近に感じることができる機会になった。
	課題	■報道によるPRの機会が少ない中で，どのように市外の参加者を確保するか。 ■多くの参加者に対応するための事前準備が足りなかった。 ■「森巡りツアー」や「森の公開」は，より多くの小・中学生に参加してもらいたい。 ■運動会などの地域の活動と調整することが必要。 ■各森ごとの参加者数が違うので，どうやって対応していくか。	■「オープニング式典」の会場が狭いため，人数，設置スペース，壇上での人の交代などの制約があった。 ■「森の文化祭」は，PR不足で会場が分かりにくかったので，誘導が必要であった。 ■「森巡りツアー」参加者の多かった場所では，スタッフが対応できずに近隣の住宅前に行列ができ，行政へ苦情が届いた。主催者に苦情が届く仕組みが必要である。 ■駅から遠い樹林地は来訪者が少なかった。 ■行政がOF実行委員会に金銭的支援をしてしまうと物品の販売などプログラムに制約がでてしまう。 ■森の特性や状況にあったプログラム内容を検討する必要がある。
③他団体とのネットワーク	成果	■行政が，会議の場を貸してくれたり，「オープニング式典」の場所を確保してくれた。	■行政の後援により，無料で鉄道会社にポスターを掲示できた。
	課題	■実行委員会の会議に，樹林地所有者で構成される「ふるさと森の会」が参加してほしい。	■「（財）松戸みどりと花の基金」からは，印刷費・交通費等の支援がもっと欲しい。 ■樹林地所有者団体である「ふるさと森の会」が実行委員会の会議に参加してほしい。

銭的支援を得ることが課題として挙げられた。

６．まとめ

本研究では，OF を事例として，民有樹林地の一斉公開イベントの成果と課題を検証した。その結論は以下のように整理される。

第一に，一般市民に対する樹林地保全活動の理解向上と担い手確保の面について述べる。まず，すべてのイベントを通じて，約 2,000 人の参加者があったことは大きな成果である。「ツアー」や「公開」には，市内を中心に隣接市からも参加者があり，市内は松戸市の広報，市外には新聞等の広報が効果的であったと言える。また，自然観察会等へのイベントの参加経験が少ない層が数多く参加しており，緑への関心が高い層だけでなく，広く一般市民に樹林地の存在や市民団体の活動への理解の向上の面で成果があったと言える。これは，「ツアー」，「公開」ともに，参加者にガイドブックが配布され，現地で市民団体のメンバーによるガイドが行われたため考えられる。一方，樹林地保全の担い手の確保の面で，近い世代の後継者として想定されるのは，50～60 代の層である。「公開」では「夫婦で参加した 50～60 代」が 16%を占め，保全活動の支援の必要性を感じている参加者も 20%程度になっており，一部の参加者へは，保全活動の支援の必要性や担い手としての参加への意識付けもできたと考えられる。しかし，その後の市民団体へ入会問い合わせは数件であったのが実状であり，直接的な効果があったとは言い難い。ガイドブックの配布や当日のガイドのみでは，その効果に限界があると考えられる。OF を契機として，参加者を実際の活動に誘うための継続的な取り組みが必要である。また，将来世代の後継者としては「親子連れで参加した 30～40 代」が挙げられ，この層は，子どもの遊びや学びに対する関心が高かった。しかし，樹林地保全活動の支援の必要性や担い手としての参加への意識付けはできなかったのが実状である。

第二に，OF を通じた市民団体間の連携強化と運営体制の構築の面である。まず，複数の樹林地を対象とする「ツアー」が実施されたことにより，ガイドツアーの企画・運営等に関するノウハウが，市民団体間に共有できたことが成果である。これは，OF にすべての市民団体が参加し，実行委員会が連携と協働の基盤となったこと，市民団体間の連携と協働を前提とするイベントであったためである。一方，「公開」は，親子での参加も多かったが，子ども向けのプログラムの強化に対する要望が強い。実行委員会事務局担当者も，子どもの参加を望んでいるが，地域行事の把握や調整が問題となった。このため，小中学校や子育てに係わる市民団体との連携が課題になる。次に，実行委員会の運営では，参加状況が十分ではない市民団体があるとの指摘がある一方，運営資金の調達をはじめチラシ・ポスター制作，各プログラムの企画・運営等メンバーへの負担が過大であったことが指摘された。このため，実働できるメンバーの確保・育成や，イベント簡略化・重点化が課題になる。

第三に行政等の多主体との協働の実現について述べる。従来から，松戸市は，市民団体との協働関係にある。今回の OF でも，金銭的支援はなされていないが，公的機関への後援依頼，連絡調整，土地所有者との連絡調整，広報・HP への掲載，会議や「式典」の場の確保等，実行委員会の主体的な活動を支援する役割を果たしており，一定の成果が得られたと考えられる。これに加えて，OF の運営資金として地元事業者からの協賛金を得ることができた。これは，地元事業者という新たな主体との連携を生み出したことを示している。

補注及び引用文献

1) 網藤芳男(1992)：住居による都市近郊樹林地の機能評価:農村計画学会誌 11(3)，21-29
2) 田中聖美・柳井重人・丸田頼一(2003)：都市における行政と市民団体との連携による樹林地保全に関わる行政担当者の現状認識:ランドスケープ研究66(5)，809-814
3) 佐藤和哉・片山律・宮沢鉄蔵(1999)：市民の森の利用行動と意識に関する研究:日本建築学会大会術講演梗概集，113-114
4) 栗原茂樹・芦澤拓実(2005)：千葉市街山づくりプログラムにおける市民緑地制度を活用した緑地保全施策:公園緑地研究所調査研究報告書，50－56
5) 門田さやか・柳井重人・秋田典子(2011)：官民協働による樹林保全の担い手育成と活動の定着に関する研究:ランドスケープ研究74(5)，693-698
6) 柳井重人(2012)：緑のまちづくりにおける市民活動の担い手の育成:都市緑化技術(84)，8-11
7)「松戸里やま応援団」は「里やまオランティア入門講座」の講座修了生から組織された団体は，総体として「松戸里やま応援団」と呼称されている。オープンフォレスト開催時に実際のフィールドを持って樹林地保全活動を行っていた団体は8団体である。
8) 松戸市都市整備本部都市緑花担当部みどりと花の課(2009)：松戸市緑の基本計画改訂版：21-30
9) オープンフォレスト in 松戸実行委員会：「オープンフォレスト in 松戸」趣意書：オープンフォレスト in 松戸実行委員会ホームページ<http://www1.koalanet.ne.jp/forest-in-matsudo/>，2012.8.01 参照